

分し、飼養していた第2牛舎について清掃および消毒作業を行いましたので報告します。

町有牧野におけるヨーネ病の発生については、令和元年10月に1頭の患畜が確認されて以来、患畜牛として殺処分した町有牛は合わせて16頭となりました。

本年度の取り組みとして、これまでの患畜牛の考察から、感染リスクの高い繁殖牛6頭を廃用牛として出荷を計画し、本年1月に出荷を終えたところです。

ヨーネ病発生から約5年が経過し、未だ清浄化を図れない状況にあります。家畜保健衛生所および獣医師の専門的な指導を仰ぎながら、ヨーネ病としっかりと向き合い、ヨーネ病発生対策の基本となる、牛舎内の清掃、消毒作業を継続的に行うことで、信頼される牧野運営に努めますので、ご理解のほどよろしく願います。

7 障害者相談支援事業における消費税法上の取扱誤認について

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づき、市町村は障害者相談支援事業を行うこととされており、当町では社会福祉法人新冠ほくと園

へ委託し、事業を実施しています。

事業を委託するにあたり、社会福祉法に基づく社会福祉事業は、消費税が非課税として取り扱われることから、本事業についても同法に基づく社会福祉事業に該当し、消費税が非課税であると認識しておりましたが、令和5年10月4日付けで発出された国からの通知により、本事業は社会福祉法上の「社会福祉事業」には該当せず、税務上の取り扱いが課税であることが示され、誤った取り扱いをしていました。

このため、新冠ほくと園に対し、本事業に係る令和5年度分の消費税相当額40万円および修正申告が可能な平成30年度から令和4年度までの消費税相当額および延滞税の支払について、申し出るとともに、同法人による修正申告を依頼したところです。

本件に関して、厚生労働省は市町村への周知不足を認めておりますが、事業実施者としての当町にも責任の一端があります。今後は関係法令の確認を徹底し、正確な情報の把握と再発防止に努めますので、ご理解のほどよろしく願います。

援と経済的負担の軽減を図ることを目的に、令和5年7月14日から支給事務を進め、本年1月末をもって支給事務を終了しましたので、結果について報告します。

本給付金は、令和5年6月1日の基準日において、町内に住所を有する学生など、または、基準日以前に町内に住所を有する世帯の世帯員として住民登録されていた学生などを対象とし、コロナ禍以降同様に給付金制度を設けて支援してまいりました町外に居住する学生などに加え、等しく物価高騰の影響を受ける、町内の学生などへも対象を広げ実施しました。

その結果、247名から申請があり、支給総額は494万円となりました。

5 令和5年度新冠町少年国内研修交流事業

本年度は令和6年1月10日から1月13日の3泊4日の日程で、中学生4名、小学6年生15名、合計19名の参加者で本事業を開催し、事故もなく当初の研修目的を達成することができました。

本事業については、沖縄県を研修地としてから約20年が経過することから、再度、今後の方向性について

1 朝日小学校閉校式

去る2月9日、本年3月31日をもって閉校します新冠町立朝日小学校の閉校式を挙行いたしました。式には、在校児童と保護者、教員、また、これまで朝日小学校を支えていただきました地域の方々や議員の皆さまなど多数のご出席をいただきました。

式の終盤、学校長と児童会長から「お別れの言葉」をいただき、朝日小学校の歩みを見守ってきた校旗を学校設置者であります町長へ返納することで、108年の歴史に幕を閉じました。

閉校式終了後には、閉校記念事業実行委員会主催の惜別の会が行われ、全校器楽や朝日小学校の歴史を映したスライドショー、そして朝日小学校の第二の校歌としております「ゆうきを出して歩こう」の全校合唱を行い、母校との別れを惜しみながら閉会いたしました。

節目となる閉校式が無事に終了したところでありますが、新年度からの新冠小学校への統合に向け、今後は最終となります今年度第4回目の統合準備委員会を3月下旬に開催し、統合に係る事務事業お

よび移転作業の最終確認を行うとともに、春休み期間に備品、書類などの移転作業を行います。

4月から新たに新冠小学校の一員となる児童を迎え入れる児童が、共に安心して新しい学期を迎えることができるよう、引き続き取り組みます。

2 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

本調査は例年同様、小学5年生と中学2年生を対象に、実技8種目に加え、児童生徒および学校、教育委員会に対する質問紙調査の内容により、4月から7月末までの期間において実施し、本年1月15日に、スポーツ庁から集計結果として、全道および全国との比較資料を含め通知がありました。

はじめに、体格に関する項目である身長・体重の状況については、いずれも全道・全国平均と同様の結果となりました。

実技調査の結果につきましては、種目の合計点で全国平均と比べ、小学校男子が「やや高い」、小学校女子が「同様」となり、中学校男子が「やや低い」、中学校女子が「低い」という結果となりました。児童・生徒質問用紙における運

て検証することとし、教育委員会や総合教育会議において協議を重ねた結果、歴史や風土、気候や暮らしの違う沖縄県は非常に研修効果が高く、また、交流先の金武町中川区とも良好な相互交流が実施できていることから、今後も沖縄県を研修地として実施することが望ましいと見解を示したところです。

この検証結果を踏まえながら、私自身も研修先を訪れ、実際に肌で感じ、教育長としての方針を示したく、本事業に参加しました。

まず、事業に参加して目にしたのは、何ごとにも賢明に取り組みうとする子どもたちの姿でした。

北海道との気候、風土の違いに驚きながらも、「平和記念公園」や「ひめゆりの塔」といった戦争を身近で感じられる施設を真剣に見学し、メモを取り、また、金武町中川区子ども会との交流においては、相互に子ども達が積極的に会話をし、交流を深めていました。

このことは、選考方式による気心の強い子どもたちが、事前研修を通して、更にリーダーとして意識や違う気候・風土を想像し、実際に肌で感じることで、自立心を養う研修の効果が活かされていると評価したところです。

また、この事業は保護者や金武町子ども会をはじめとした多くの大人とも関わり合う、交流事業であります。

事前研修では保護者が送り迎えし、時には弁当を作り、子どもへの熱い思いと期待を込めながら参加させ、北海道から遠く離れた沖縄から新冠町に無事に帰ってくるまでの間、親子の存在を再認識する機会となったとも考えております。

金武町のみなさんも、歓迎と書かれた大きなキーを用意していただくなど、心のこもった「おもてなし」をしていたいただきましたし、子どもたち同士心の通い合う交流事業となりました。

次年度は、コロナ禍において中止しておりましたが、民泊での宿泊体験を再開する予定となっており、遠く離れた北と南の絆が更に深まると感じております。

このように、実際に参加して見ていかなかったものも含めて、感じ取ることができましたし、本研修事業を継続実施することは、大変意義深いものであると確信できましたので、次年度以降も沖縄県を少年国内研修交流事業の研修地として実施していきたいと考えています。